

伊勢のお白石持



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

編集発行・御遷宮対策委員会
伊勢市岩渕1-7-17(伊勢商工会議所内)
電話0596-25-5215



月読宮「お白石持行事」のようす

9月28日 月読宮お白石持行事

つきよみのみや

月読宮のお白石持行事が行われました。

式年遷宮に伴い現在、順次進められている神宮の別宮、撰社・末社・所管社、全125社の御遷宮。9月28日には、四郷奉献団による月読宮のお白石持が行われました。

秋晴れの空の下、お白石を載せた木ざりには、朝熊町、二宇田町、中村町、楠部町、鹿海町と各奉献団ののぼりが仲良く飾られ、可愛い子ども木遣りの元気な唄を先頭に、それぞれの団が役割を分担しながら「四郷」がひとつとなり奉曳を行いました。そして、月読宮到着後は、鳥居前でそれぞれお白石を手にして参道へ。真新しいお宮の前に奉献しました。

その後、10月6日の月読宮御遷御は、台風18号が当日未明に接近

別宮の御遷宮

11月30日、倭姫宮のお白石持行事が
開催されます

やまとひめのみや

し心配されましたが、ご神体が新座へ遷られる「遷御の儀」は無事執り行われました。

倭姫宮は5団の奉献

そして次に控えているのは倭姫宮の御遷宮。別宮のお白石奉献にあたるのは、それぞれのお宮に所縁のある奉献団です。倭姫宮の場合は、内宮領(ソリ曳)全団が、地区別に分かれ、4団(4基)で奉献を実施。加えて、外宮領の団から、倭姫とは由縁が深い倭町が、唯一奉曳車を使用して倭姫宮へのお白石奉献を実施します。11月最終日の日曜、全5台の奉曳が晩秋の御幸道路を、エンヤのかげで賑やかに進みます。沿道でのご声援もよろしくお願い致します。

■御幸道路の道路規制等、3ページ参照

■お白石持行事は500年以上継承されている伊勢の民俗行事です。実施へのご理解ご協力をお願い申し上げます。



「伊勢のお白石持行事」ホームページ
<http://www.isesengu.jp>

10月3日 宇治橋鳥居竣工・奉祝行事開催

報告



宇治橋新鳥居竣工式

10月3日、伊勢神宮では御遷宮に伴い新調された宇治橋の鳥居の竣工式が行われました。鳥居には、遷宮後に解体された内宮と外宮の旧正殿の「棟持柱」が用材として使われることが慣例となっているため、遷宮から1年を経ての新調となりました。午前中には無事完成した鳥居のくぐり始めを行い、式典が無事終了。輝くような真新しいヒノキの鳥居をくぐつての参拝は、喜びもひとしおです。

新しい鳥居が建て替えられた後、これまでの西詰(外側)の鳥居は、お化粧直しを



くぐり始め

して、三重県桑名市桑名宿の「七里の渡し」に、東詰(内側)の鳥居は鈴鹿峠の麓にある関宿の「関の東の追分」の鳥居として建てられ、それぞれ次の御遷宮まで、神宮遙拝の鳥居として使用されます。

御遷宮奉祝

戸畑祇園大山笠

また、当日は市内の公道を会場に、福岡県北九州市より来勢した2台の「戸畑祇園大山笠」の奉納披露がありました。大織(のぼり)や水引き、切り幕などで豪華に飾られた大山笠を、外宮前、そして内宮前では夜の提灯山笠をご披露いただきました。

309個の提灯で彩られる高さ10メートルの提灯の灯りを揺らしながらおはらい町を練り歩く様子は、最大の



見どころ。たくさんの方々が観光客を魅了しました。

国民総参宮

そして、夜には、竣工をお祝いする気持ちを参拝をもつて現そうと、国民総参宮を行いました。一般参拝時間を終えた18時より特別な許可をいただき、隊列を組んでの夜間参拝を実施。

心配された雨もなく、気持ちのよい秋の夕暮れ、整列会場には、4000人を超える市民が続々と集合。北九州より奉祝のためにきていただいた神洲太鼓の奉納演奏がオープニングを飾り、式典の後、ボランティアスタッフが掲げる御遷宮ののぼりや、提灯を道案内に、新しい鳥居をくぐって肅々と夜の神域へと進みました。

参拝後、ご参列の方には、感謝と喜びをこめて、「萌(もえ)」の文字が記された鳥居竣工奉祝参拝の記念木札を配布しました。



総参宮は夜間にもかかわらず約4000人の方が参列。特設ステージでは神洲太鼓の奉納演奏が披露されました。